

看護師不足の病院の今後 広報げろ 2013.12

看護師不足の病院の今後

病院はものを扱う企業ではなく、人に対応するサービス業です。サービスにはマンパワーが大変重要ですがその充実のためには様々な規制があり病院を悩ませています。

◎病棟の維持が困難になる看護師不足

人を減らせばサービスの質は低下するだけではありません。看護師の数が減れば病棟が維持できなくなります。たとえば夜勤看護師が一人の病棟では、入院患者が少なくなっても看護師が7人以上必要です。これは勤務が二交代制の場合、夜勤が4週間に4回（72時間）を超えると入院基本料金が極端に減らされ病院経営が成り立たなくなるからです。

◎病院収益の悪化を招く看護師不足

病院の収入の多くは看護師の充足率によって決められた入院基本料です。看護師が少なくなれば基本料が引き下げられるばかりではありません。入院患者数を減らさないと看護が不十分となり、救急患者の扱いや、手術などにも差支え、人工透析患者の受け入れも困難になります。

◎建設費が返済できなくなる看護師不足

新病院は建設費や跡地処理のために多額の出費がなされました。多くの自治体病院では病院建設費は自治体が責任を持つのですが、金山病院ではその費用は病院の運営によって得られる収入から支払うことになっています。看護師が減り、患者の受け入れが困難になり収入が減ればその費用返済に支障をきたします。

◎下呂病院との連携が困難に。

看護師不足のために金山病院が入院制限すると下呂病院の高次機能支援が困難になります。高齢化が進み増加する慢性疾患患者の受け入れが困難になれば地域の維持に影響します。

◎看護師不足対策

金山病院は慢性的な看護師不足に悩んでおり、看護師獲得のために2年間勤務すれば返済の必要のない20万円の就職時準備金を用意し、病院への就職を促しています。

病院独自の奨学金制度は病院経営の基本です。下呂病院は看護学校を併設しているため毎年看護師が補充されています。しかし、看護師不足に悩む病院の多くはその病院に一定期間勤務すれば返済しなくて良い独自の奨学金制度を持っています。下呂市は月額7万円の奨学金制度を運用していますが、市内のどこで勤務してもよいとしているため現在までのところ金山病院での勤務の希望者はありません。金山病院でも独自の制度を提案してきましたが認められていません。

下呂から離れて生活しておられる皆様のご子息はどのような住居にお住まいでしょうか。金山病院には看護師さんが好んで住めるような宿舎がありません。民活による宿舎建設に期待します。

下呂市に居住する方々の看護、介護は下呂市出身者で担う以外にありません。若い方々の地域を守る意識に期待します。

下呂市立金山病院 院長 古田智彦